

▶第65回学校代表者協議会発題1要旨	(2面)
▶第65回中高研究集会報告	(〃)
▶公募	(〃)
▶学内教職員研修会講師派遣制度	(3面)
▶キリスト教教育者物語	(〃)
▶北陸学院中学校・高等学校 市民クリスマス	(4面)
▶聖学院120周年記念式典	(〃)
▶キリスト教Q&A	(〃)
▶行事予定	(〃)

キリスト教学校教育 12

2022・2023年度教研テーマ
希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 廉太
編集人 田村 浩一
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)
(毎月1回15日発行)

ヨハネによる福音書の冒頭は「初めに言があった」です。また旧約聖書の創世記の冒頭は「初めに、神は天と地を創造された」とです。どちらも「初めに」という言葉から始まっています。学生時代にルター訳のドイツ語聖書を読んでいたとき、ヨハネによる福音書の冒頭の「初めに」と創世記の「初めに」とは異なる前置詞が使われていることに気がつきました。日本語の聖書では両方とも同じ「初めに」なのに、なぜドイツ語の聖書では異なる表現になっているのか疑問でした。この疑問が久しぶりに浮上してきました。文語訳聖書では、創世記の



「キリストの誕生」聖隷クリストファー小学校4年 飯田心優

「初め」には「原始」という漢字が当てられ、ヨハネ福音書では「太初」という漢字が使われています。ヨハネ福音書では、「言は神とイコールキリスト」ということとです。旧約聖書の詩篇の詩人は33篇6節で、「天は主の言葉によって、天の万象は主の口の息によって造

永遠の言葉



鵜殿博喜

と共にあった。言は神であられた」と歌っています。またヨハネ福音書1章10節では「世は言によって成った」とあります。言葉であるキリストは言葉である神として、天地創造の前

で存在していたということとです。創世記の「初めに」は時間の序列の中でのこの世界の「初め」であった、ヨハネ福音書の「初め」は時間を越えた初めということとなります。宗教改革者のカルヴァンは註解書の中で、「この初めという語を、天地創造の初めに結びつけて考える人たちは、キリストをこの世のもの月並みな段階に位置づけようとはしていないか」と疑問を呈しています。また18世紀の中頃に聖書を厳密にドイツ語に翻訳しようとしたアルブレヒト・ベンゲルの聖書の註で、ベンゲルは「言葉は始まりの前すでに永遠に存在した」と

いう言い方をしています。文語訳聖書はこの二つの「初めに」の違いを異なった漢字を当てることで解決しようとしたのでしようか。

クリスマスは、この時間の枠を超えた言葉、すなわちキリストのご降誕を祝う時であります。主イエスは家畜小屋でお生まれになりました。お生まれになったときからこの世には歓迎されないお方でした。私たちが罪を背負い、死のうちに復活され、わたしたちに真の希望のありかを教えてくださいました。主イエスの誕生は復活にまで続く第一歩なのです。

最後は古川敬康教育同盟理事(北星学園理事長・学園長)から自由学園の皆様へ感謝の言葉が伝えられ、閉会祈祷で協議会は終了しました。

生のは発題要旨を掲載。他は1月号に掲載予定。聖学院 創立120周年を迎え、10月28日(土)10時から記念式典とパイプオルガン奉献式・記念音楽会が大学チャペルで開催された。

Merry Christmas
2023年12月25日
クリスマスの希望の輝きが皆様とともにありますように

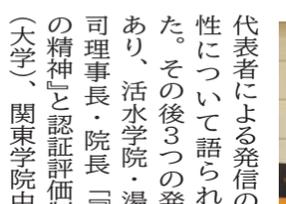
一般社団法人キリスト教学校教育同盟
理事長 西原 廉太
事務局長 孫 永律



会場の記念講堂(夕景)

第65回学校代表者協議会が11月3日(金)54した。続いて「自由学園日(土)に学校法人自由創立100年のあゆみと学園(東京都東久留米)これから建学の精神と市)にてオンライン併用学校アーカイブズの役割で開催されました。57学 橋和也学園長と村上民資校長から96名が参加。3日17時45分から講堂 料室主任研究員による講演が行われました。4日は朝の礼拝(説教 後藤田典子教諭)の精神と認証評価制度)の理事長と村山順吉自由学 後、発題が行われました。まず、伊藤彰浩先生(大学) 関東学院中学校(西南学院大学教授)に「転換期のキリスト教による発題「キリスト教 校一課題と展望」(中学校法人のガバナンス 高) 北陸学院小学校「建学の精神」は組織の 茶谷信一校長「公立から原動力なのか?」で、西 見たキリスト教学校「南学院職員へのアンケートの驚きと喜び」(小学校)と、校種別の情報と

壇上には生徒たちが育てた花が飾られました



初等部食堂



初等部食堂

午後最高学部(大学部)の教室でグループ討議が行われ、特に校長グループでは討議の前に、くるみ心理オフィス・二宮一美代表の発題「学校現場のLGBTQ対応―臨床心理士から」があり、質疑が交わされました。

課題が共有されました。昼には築80年を越える初等部の食堂で、自由学園の創立100周年記念日と同じ献立の食事をいただきながら、先生方の案内により広大なキャンパスを見学しました。

望だ…」と。天使のお告げを聞いて、マリアも大いに戸惑い、考え込んでしまいました。ましてやクリスマスの夜の神秘的な情景には、誰もが戸惑って当然です。『銀河鉄道の夜』の主人公のように、私たちは戸惑う仲間と共に「どこまでも どこまでも一緒に行こう!」と、寄り添いながら聖夜を迎えたいと願うのです。〈桜美林学園キリスト教センター長/学園チャプレン〉

クリスト教への深い共感の心情が込められていました。彼の周りには多くのキリスト者が網の目のようにつながり、書棚にも聖書が置かれていたようです。これは私の希望的推測ですが、宮沢賢治がもう少し長生きしていたら、迷いの遍歴ののちに、洗礼を受けていたのではなかろうかと想像しています。迷い出た羊のような人生だったのに、死ぬ直前に洗礼を受けて信者になった人のことを「天国泥棒」と冗談めかして言うことがありますが、人生に戸惑い、回り道をした人にも惜しみなく救いの恵みが与えられる出来事、それがクリスマスに他なりません。こうして聖書のことばを教職員に語る際に、私はいつも心の中で秘かに願っています。「無理なくいいよ、でも心の片隅に留めてくれたら嬉しいな。そして人生の最期でもいいから、神様を信じてくれたら本

望だ…」と。天使のお告げを聞いて、マリアも大いに戸惑い、考え込んでしまいました。ましてやクリスマスの夜の神秘的な情景には、誰もが戸惑って当然です。『銀河鉄道の夜』の主人公のように、私たちは戸惑う仲間と共に「どこまでも どこまでも一緒に行こう!」と、寄り添いながら聖夜を迎えたいと願うのです。〈桜美林学園キリスト教センター長/学園チャプレン〉



学内教職員研修会講師派遣制度 2023年度実績報告

加盟学校教職員がキリスト教教育・建学の精神への理解を深めるため、各校が実施する学内研修会に、そのテーマにふさわしいキャリアの講師を教育同盟が費用負担をして派遣します。今号では今年度に制度を活用された学校から寄せられた実績報告の一部をご紹介します。来年度の制度利用を受付中です。

弘前学院 聖愛中学高等学校 (講師：小暮修也先生)

本校では、教職員研修会が開かれなくなって10数年がたち、日々の礼拝は行われるものの、それ以外の学習機会にめぐまれません。また、年々クリスチャンも減りました。明治学院では大学、現在では信仰者が2・高校・中学の教職員が名という状況です。そんな教職員にこそ学習の必要性を感じ応募させてくださいました。採用して下さって感謝申し上げます。

さて、修養会のテーマは「キリスト教主義学校に勤める意義について」です。弘前学院も中心に交流を図っていきたく、ノックリスチャン教員に「役割」を話し、講師は明治学院の元高校校長であるものでした。3・4生でした。先生はノックリスチャンの取組みとして「クリスチャンマインドをもって教育に当たること」と、実的確な言葉を表して下さいます。授業で表して下さいます。授業で表して下さいます。授業で表して下さいます。

記念礼拝の時期、「生活教室」の復活、「花の日礼拝」の取り組み方、「クリスマス礼拝」の役割分担など、今後検討する課題が多く出されたと同時に、ある意味すでにクリスチャンマインドを持ってやってきたのではないかと再確認の場にもなりました。その中で「どこまで教職員が本気で取り組めるかが大事。クリスチャン、ノックリスチャン関係なく本気で取り組むことで生徒にそれが伝われば良い」という意見が出たのは収穫でした。全体的に前向きな姿勢を感じました。

このからの課題は、この気持ちを持ち続けて日々の業務にあたるかという事です。是非とも来年度も実施し、ゆくゆくは大学と合同でキリスト教の勉強をできればと考えています。

太田 淳
〈弘前学院聖愛中学高等学校教諭〉

茨城キリスト教学園 (講師：清水広幸先生)

「主の山に、備えあり！」
(講師：清水広幸先生)

今回、本学園は、教育同盟の制度を利用して、学園キリスト教教育研修会(「ICビジョン・フォーラム」)を開催することができました。同制度の利用は今回が三度目



対面約60名、オンラインで約50名が参加

キリストの教会(Churches of Christ)と聖学院の背景にある「Disciples of Christ」の関係についても大変分かり易く解説して下さいました。本学園での研修会でも分ち合っているの

西南学院小学校 (講師：水口洋先生)

「建学の精神に立ち返る」
(講師：水口洋先生)

研修ではまず、私学が問われる現実問題への具体的な対応として、①水口先生の優しき且つ熱のこもったお話に、提示されました。②中教審答申「令和の日本型教育の構築を目指して」が指摘するこれからの教育について、また流行に流されない本質的な学びを教師自身が、子どもたち自身が行い、子どもたちが還元しなければ、と認識しました。「beingを肝に銘じ、歩みを進めたい」と感じました。

8月25日、水口洋先生(日本聖書学校理事・玉川聖学院理事)が講師として来て下さいました。西南学院小学校は開校して14年目ですが、理想と熱い思いを持って開校準備を進めた当時のメンバーもわずかと残り、共に歩む組織でありながら、少しずつ認識に歪みが生じてきていました。そこで、まず私学として道徳の教科や特別支援教育等、本校が抱えている問題や教育活動上大切にすべきことは何かということから、キリスト教を基盤とした学校に勤める教職員自身が持つべき教育観・人間観を自分自身で見直す時を持ち、各自が新たな認識と喜びや希望を得るという目標をもち、各自が現在悩んでいたことにお応えいただき、学校をもっと素敵なものにして

た。今後は楽しみます。同盟のご配慮、講師の清水先生のご準備に心より感謝申し上げます。そして、それを許して下さいました。主の山に、備えあり！」

野口 良哉
〈茨城キリスト教学園チャプレン〉

学内教職員研修会講師派遣制度 2024年度派遣依頼募集

- 研修会の講師費・講師交通費等を同盟が負担。
- 派遣講師の指名や希望はお受けしていません。
- 教育同盟HPお知らせ欄より入り、要項と申込書をダウンロードしてご利用ください。
- 申込み締切：2024年1月31日(水)
- 結果：講師派遣委員会で2月中旬に決定

《申込みに向けて》希望開催日時、場所、テーマ、参加者数、担当責任者を事前にお決めください。
開催設定：2024年4月1日～2025年1月31日
テーマ：「キリスト教教育」を前提とします。

キリスト教教育者 物語

チャールズ・
ラファイエット・ブラウン
(1874～1921)

ルーテル学院大学



東京三鷹市にあるルーテル学院大学の歩みは、1909年、熊本市に創立した路帖(ロウテツ)神学校から始まります。その時、30代半ばで初代校長に着任したのが、アメリカの南部一級ルーテルシノッド宣教師チャールズ・ラファイエット・ブラウンであり、彼は九州学院設立にも力を尽くしました。

多くの貧しい農家です。財産は自宅と飼う鶏です。でも日曜日は神様の日だから、日曜日に鶏が産んだ卵は神様のために捧げることにしたので、ブラウンは、この教会員の祈りと献金に支えられて日本に遣わされるのです。しかし、主の召しに従うブラウンの働きは日本に留まることはありませんでした。1916年、帰米中に海外伝道局総幹事代行に任命されたブラウンは、新たな宣教の地としてアフリカに渡り、調査訪問していたベリアで病に倒れ、天に召されます。

九州学院校舎前で
(1911年)



ルーテル学院大学は、1993年に建てた新校舎を初代校長の名前から「ブラウンホール」と名付けました。この校舎は神様の召しを受けた若き宣教師が、教会の祈りに支えられ、地の果てまで福音を宣べ伝える生涯を全うしたことを記念しています。そしてルーテル学院大学も、神様の召しに熱い思いで応える学生たちを世に遣わし続けているのです。 河田 優

